

2012年度 障害児（者）教育研究委員会 活動報告

I 活動内容・テーマ

本研究委員会は、一昨年度及び昨年度においては、数回にわたり特別支援学校を訪問し、研修させていただきました。各高等学校で障害児（者）を受け入れるために、特別支援学校との交流は不可欠なものであるとの考えは変わりはなく、そのような流れを本年度も基本的に継承し、以下のようなテーマを設定しました。

- ・「障害児（者）をめぐる差別や偏見をなくすための課題を研究する」
- ・「特別支援学校と各高等学校との交流のあり方について研究する」
- ・「各校における障害のある生徒の受け入れについて研究する」

II 本年度の活動

- 第1回 5月25日（金） 橿原市中央公民館
「各学校における取り組み」の紹介・報告
- 第2回 8月1日（水） 奈良県立奈良西養護学校
奈良県立奈良西養護学校の取り組みに学ぶ（施設見学等）
- 第3回 9月21日（金） 奈良県立高取国際高等学校
奈良県立高取国際高等学校の取り組みに学ぶ（授業見学等）
- 第4回 11月30日（金） 奈良県立大淀養護学校
奈良県立大淀養護学校の取り組みに学ぶ
（高校の先生のためのオープンスクール・一日授業参加）
- 第5回 1月11日（金） 橿原市中央公民館
今年度のまとめと課題

○第1回

- ・5月18日（金）の総会後の打ち合わせ会で、座長として、葉山（生駒高等学校）・小野（高取国際高等学校）の2名を選出しました。
- ・各校における取り組みを紹介・報告しました。特に、本年度新たにテーマとして設定した「各校における障害のある生徒の受け入れについて」を中心に行いました。
- ・本研究委員会の年間活動計画を検討し決定しました。

○第2回 奈良西養護学校の施設見学等を行いました。

奈良西養護学校は旧富雄高校をリニューアルして2008年に開校した新しい学校です。教頭先生による学校概要の説明を挟んで、まずプールでの授業を見学し、その後校舎内の施設・設備を見学しました。手すりの補強、階段の段差の改善、渡り廊下の段差の解消など、県立高校の建物が特別支援学校に対応できるように改造されている点に参加者の興味関心が集まりました。もちろんエレベーターも1カ所設置されています。特別支援学校以外的高校で車椅子の生徒を受け入れる場合でも、エレベーター設置・手すりの補強・フロアの段差解消といった整備が最低の条件ではないでしょうか。

○第3回 高取国際高校の取り組みから学びました。

「車椅子使用生徒を受け入れて」をテーマに、高取国際高校で研修させていただきました。まず、研究協議では、本人の障害のようす、小学校・中学校のようす、高校受検にあたって、入学にあたって、学校生活（授業、部活動、教室移動など）、介助員について、などについて説明を受けて話し合いました。その後、授業風景見学・階段昇降機見学、部活動見学（ESS部）などをさせていただいたあと、アンケートを行いまとめました。以下、参加された先生方の感想から一例をあげておきます。

- ・特別支援学校でも施設・設備に問題があり大変なことがあるのですが、高等学校での車椅子の対応は想像を絶するものがありました。これからは、高校もエレベーターは必須です。県も毎年一校ずつでも設置する計画をたてるべきと感じました。
- ・授業の様子を見せていただき、ご本人のがんばっている様子とクラスの雰囲気を感じることができました。教科担当の先生が、自然に配慮されて授業をすすめる姿が印象的でした。非常に明るく学校生活を送っている様子が見られたと思います。

○第4回 大淀養護学校の『高校の先生のためのオープンスクール（一日授業参加）』

（2012年度高人教中部・南部ブロック公開ホームルーム）に本研究委員会の研修の一つとして参加させていただきました。

大淀養護学校の児童・生徒に関わり、教員とともに授業をすすめることで、特別支援学校の教育と障害児への理解を深めることを目的に毎年実施されています。参加された先生方の感想の一例を紹介します。

- ・各生徒の課題が先生方で共有されていて、授業中も生徒に応じての接し方、頻繁に声かけされている姿を見せて頂き、勤務校での生徒への接し方について考えさせられました。
- ・中学部の授業を見学させていただいたのですが、実習を忘れない、思い出するための工夫が色々なされていて参考になりました。SMAタイム（スポーツ、ミュージック、アートなどのクラブ的な活動）は生徒の皆さんがとてもいきいきして良いなと思いました。1日1時間の見通しがたつようにされていて参考になりました。

○第5回 本年度の活動のまとめと課題についての意見交流を行いました。

Ⅲ 本年度の活動のまとめと課題（第5回委員会での意見交流とアンケートから抜粋）

- ・特別支援学校で研修できたことは大変有意義でした。特別支援学校の負担にならない程度に継続していきたいです。
- ・ハード面の不備で設備の充実を図ることが望まれています。耐震の問題もあって実現されることは難しいこととは思いますが、要望は継続していく必要があります。
- ・子どもの要望は多くあり、しかし、なかなか言えないことも多くあると思います。子どもが自発的に声や手をあげて訴える場所づくり、それを引き出す教員をもっと増やさないといけないことを学びました。
- ・来年度は、大阪や京都の先進校から学ぶ機会を得ることができればありがたいです。
- ・障害をもっている生徒を自校でどのように受け入れるのが課題です。受け入れている学校の実態や課題を把握する取り組みから始めることも必要ではないでしょうか。